

**進捗状況の概要** 【1ページ以内】

本事業を通して26年度から学生交流を実施したことにより、様々な成果と課題がより明確になるとともに、本事業の目的である「日本を含むアジア全体における共同の経済の発展と信頼関係の確立をもたらす、平和構築に貢献する中核人材」の育成に向け、今後の事業展開について多くの知見を得ることができた。

**1. 部局の積極的な協力と強固な実施体制による質保証のともなった学生交流**

学生交流開始前に協定大学との連絡協議を十分に行ったことにより、特筆すべき成果をもたらした。特に、本学の国際担当副理事とプログラムを実施する各部局の教職員が強固な連携体制を作り、共に協定大学を訪問し、機関代表レベルと部局間レベルの2層段階においてプログラムの内容や実施の手順等を具体的に交渉できたことは、具体的なプログラム構築を行うにあたり非常に有効であった。また、それらの交渉を双方のキャンパスにて実施し、さらに部局によっては教員の合同セミナーの開催にまで発展させ、特に教員同士の相互信頼関係を事前に構築できたことにより、初年度の交流事業をより円滑に実施することができた。さらに、そうした教職員による事前の交渉を通して、①共通の単位互換制度として、2013年より新たな概念が導入されたUCTS(UMAP単位互換制度)の活用への合意、②専門教育科目の内容に関する互換性の向上、③単位互換をより円滑に行うための本学が受入留学生に提供する科目の多くを3単位化、そして④本学の学年暦(後期)を協定大学の学期制に合わせた開講期間の短縮化等、具体的な教育交流の手法に関する内容の調整を学生交流が始まる前段階で確定し、質保証をともなった学生交流を実現した。

**2. 学生の個人研究とコンピテンシーの成長を意識した教育の効果**

本事業は、受入・派遣双方の学部学生の専門教育と個人の研究成果を意識してプログラム全体を構成したことにより、単に英語力や研究能力だけが向上したのではなく、異文化の環境でも、また英語力が未熟であっても、国際的な環境の中で物事に積極的に取り組んでいくための様々なコンピテンシーの向上を特に帰国後の派遣学生の成果発表から見ることができたのは、本事業の予想以上の成果であった。具体的取り組みは以下のとおりである。①「**国際課題研究**」科目では、全ての受入留学生及び派遣学生が専門分野に関する研究テーマを設定し、所属部局教員の指導の下、留学中に現地で実験、面談、アンケート調査等を行ったうえ、研究成果を発表・議論した。受入留学生には、国際センターの担当教員が論文のまとめ方や成果発表の仕方に関する授業を行い、研究成果をどのように対外的に魅力のあるものへと発展させるか学ぶ機会を提供した。②**AIMS—HU学生セミナー**では、受入・派遣双方の学生が自ら企画・運営し、参加学生全員が意見を多く発言できる手法により学生の討論会を開催した。③**コンピテンシーの測定**では、受入・派遣双方の学生が7つのコンピテンシーについて留学前、留学中、留学後の3回にわけ自らの成長を評価した。学生たちは、多くの現地学生との交流を通して、異文化間でも積極的に交流しようとする姿勢が生まれ、測定の評価では多くの学生が成長を認めた。これらの取り組みにより、受入留学生からは専門研究の方法論を学ぶ機会を高く評価する声が寄せられたほか、派遣学生を指導する教員からは、語学力が多少足りなくても自信をもって積極的に研究発表に臨む学生の姿勢を評価する声が寄せられ、本事業の目指す**人材の養成(アウトプット)の実現**が期待できる。

**3. 国際キャリア教育の実施**

1年間の**国際キャリア育成**をめざして、留学中は、受入・派遣双方の学生に現地日本企業や公共団体等を訪問する機会を提供し、様々な技術開発や経営戦略、課題と今後の計画等に関する講義と施設や工場の見学を実施した。留学後は、受入・派遣学生それぞれの母国での中長期インターンシップを提供するため、インターンシップ・コーディネーターが国内外の企業や公共団体と折衝し、学生とのキャリアコンサルティングを行ったうえでマッチングを行っている。

**【本事業における中間評価までの交流学生数の実績】**

平成25年度				平成26年度			
受入		派遣		受入		派遣	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
0人	0人	0人	0人	25人	22人	25人	25人